

穂学



令和5年度

広州日本人学校 学校便り

[No.22]

令和6年2月2日(金)

発行責任者 校長 加藤康徳

「積み上げの道筋と逆算の道筋」について

私は大学生時代に中学校2年生の家庭教師をしたことがありました。保護者との最初の面談で依頼されたことは「〇〇高校に合格させてほしい。」という内容でした。そして教科の成績を見せてもらい私なりに分析して、子どもに残り1年で「どのような課題があり、それをいつまでにどのように改善し、成績を上げていくのか」について説明をしました。

しかし、2回目の授業の日、授業中突然、その子どもから「先生、解決する課題が多くて見通しが持てず、合格する自信が無いです。」と言われてしまいました。合格のために課題を積み上げ、一つ一つ解決しようと思っていたのですが、学習の序盤で「自信が無い」と言われたことに私も少しショックを受けたことを覚えています。少し考えた後、私は次のように話をしました。

「課題が重すぎて、ゴールまでの見通しが見えなかったんだね。じゃ、まずはゴール(合格)で自分が喜んでいる姿を想像しよう。つまり、既に君は「合格した!」ということだよ。そこから、なぜ、ゴールができたのかを課題を思い出しながらを逆算して考え、今の自分まで遡って考えてみよう。」

しばらく時間をとって、白紙の紙にそのイメージを描かせながら考えさせるとやがて本人から「先生、合格をイメージできたので少し気持ちが楽になりました。」と言ってくれました。そして、その子が持っている「合格からの逆算」のイメージ(自分は何が苦手なのかはしっかりと理解している子どもでした。)を基に、逆算しながら一緒に計画を組み立て、子どもも納得した上でその計画に沿って学習を進めていきました。それから1年後、保護者から依頼のあった(本人も希望していた。)高校に無事合格することができました。

今振り返るとこの話のポイントは2つだったと思います。

一つ目は「計画は人が押し付けるものではなく、自ら作るものであること」二つ目は「目標を達成するためには克服すべき課題をゴールから逆算していくことも大切であること」です。

この二つ目のポイントに関しては、最近、似たような趣旨の話のある講演会で聞きました。その講演者(建築学の教授)は「一流の建築デザイナーは、例えばシティホールの設計を頼まれた時は、何が必要な設備やデザインなのかを足していくのではなく、まず市民が憩いの場で笑顔になって利用している姿を想像し、なぜ人々は喜んでいるのかを考え、そこから逆算して施設をデザインしていくものだ。必要なものを考えあれこれ積み上げていくと使い勝手の悪い、不格好で、建築費用だけが膨らんでいく施設ができあがる可能性がある。」と話していました。

「時には逆算してから計画を立てていくことも必要なのではないか」この講演を聞いて、家庭教師時代の経験とつながりました。「積み上げの道筋と逆算の道筋」きっとこの考え方も現在教育界の中で言われている「さまざまなものの見方・考え方」と言えるのではないのでしょうか。

最後に三つ目のポイントを見つけました。「理屈は分からずやってみたら、実はこのようなことだと後になって理解できることもある。」

「まず、やってみる」ことも大切なことだと気が付きました。



「広州外国語実験校を訪問してきました。」※1月17日（水）

広州外国語大学の付属学校（小、中、高）の全寮制の学校で、日本の高校、大学と提携している広東省内でもかなりレベルの高い学校です。（※トップレベルの高校生はイギリス、カナダ、アイルランド、オーストラリア、アメリカの大学に進学しています。）



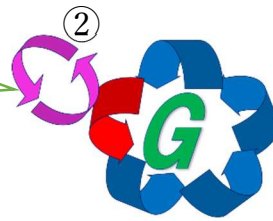
この学校から広州市教育局を通じて、日本人学校との交流についての打診があり、1月17日に実際に訪問してきました。5800人が学習する校舎、寮、食堂、プール、グラウンド、ホールなど巨大な施設、設備の整った学校でした。せっかくの機会なので今後交流の機会を探っていこうと考えています。

※ダイナミックな授業展開の紹介です。

「教科横断的な学習」

※小学部1年生 1月26日（金）1校時

②授業と授業をつなげ、そして子どもとつなぐ！



<大切にする5つのつながり>

- ①先生とのつながり
- ②授業とのつながり
- ③友だちとのつながり
- ④保護者・日本人社会とのつながり
- ⑤中国とのつながり

1年生では教科横断的な学習を日々の授業に取り入れています。国語科では「もののなまえ」の学習で、身の回りの語句には「まとめた名前」や「1つの名前」があることに気づき、その語句を使って、生活科の「お店屋さんごっこ」を行いました。お店の品物に値段を付け、折り紙で作ったお金で実際に買い物をする活動を取り入れることで、算数的な要素も取り入れ実社会での問題解決につなげました。



<学習の様子>

「体力検査（握力）2回目の測定結果について」

△上昇 ▼減少

学年部	男子[kg]	女子[kg]
小学部 低学年	▼0.1	△0.1
小学部 中学年	△0.65	△1.1
小学部 高学年	△0.75	△0.4
中学部 全体	増減なし	▼0.9

昨年の5月に実施した「全国体力運動能力調査」で、特に全体的にポイントが低かった「握力」について、その数値の改善に向けて学校全体で取り組んできました。今回、2回目となる握力検査の平均の数値が出ましたのでお知らせをいたします。（※全体的には改善されています、）